

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

IN RE APPLICATION OF: Junko FUKUDA, et al.

GAU:

SERIAL NO: NEW APPLICATION

EXAMINER:

FILED: HEREWITH

FOR: INFORMATION PROCESSING DEVICE

REQUEST FOR PRIORITY

ASSISTANT COMMISSIONER FOR PATENTS
WASHINGTON, D.C. 20231

SIR:

- ☐ Full benefit of the filing date of U.S. Application Serial Number, filed, is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §120.
- ☐ Full benefit of the filing date of U.S. Provisional Application Serial Number, filed, is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119(e).
- ☒ Applicants claim any right to priority from any earlier filed applications to which they may be entitled pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119, as noted below.

In the matter of the above-identified application for patent, notice is hereby given that the applicants claim as priority:

<u>COUNTRY</u>	<u>APPLICATION NUMBER</u>	<u>MONTH/DAY/YEAR</u>
Japan	2000-270638	September 6, 2000

Certified copies of the corresponding Convention Application(s)

- ☒ are submitted herewith
- ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee
- ☐ were filed in prior application Serial No. filed
- ☐ were submitted to the International Bureau in PCT Application Number .
Receipt of the certified copies by the International Bureau in a timely manner under PCT Rule 17.1(a) has been acknowledged as evidenced by the attached PCT/IB/304.
- ☐ (A) Application Serial No.(s) were filed in prior application Serial No. filed ; and
(B) Application Serial No.(s)
- ☐ are submitted herewith
- ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee

Respectfully Submitted,

OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,
MAIER & NEUSTADT, P.C.



Gregory J. Maier

Registration No. 25,599

C. Irvin McClelland

Registration Number 21,124



22850

Tel. (703) 413-3000
Fax. (703) 413-2220
(OSMMN 10/98)

501P1389US00

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

J1046 U.S. PTO
09/944080
09/04/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 9月 6日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-270638

出 願 人

Applicant(s):

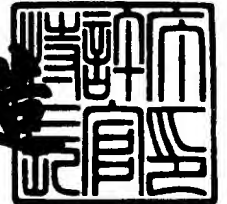
ソニー株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年 6月11日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3054346

【書類名】 特許願

【整理番号】 0000756102

【提出日】 平成12年 9月 6日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G06F 3/02

【発明の名称】 情報処理装置

【請求項の数】 8

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
内

【氏名】 福田 純子

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
内

【氏名】 山口 祥弘

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
内

【氏名】 井原 圭吾

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
内

【氏名】 西村 孝則

【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代表者】 出井 伸之

【代理人】

【識別番号】 100098084

【弁理士】

【氏名又は名称】 川▲崎▼ 研二

【選任した代理人】

【識別番号】 100111763

【弁理士】

【氏名又は名称】 松本 隆

【選任した代理人】

【識別番号】 100108936

【弁理士】

【氏名又は名称】 秦 貴清

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 038265

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0011745

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 情報処理装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 オペレーションシステムである OS プログラムとアプリケーションプログラムとに基づいて各種情報処理を行う情報処理装置において、

キーボードが配置される本体側筐体と、

表示画面が前面に配置され、前記本体側筐体に対して開閉方向及び旋回方向に回動自在に連結される表示側筐体と、

少なくとも前記回動により前記表示側筐体の背面が前記本体側筐体に近接した状態で操作可能位置に配置される第 1 の操作子と、

前記第 1 の操作子の操作に基づき、前記 OS プログラムに基づく処理候補を示すシステムメニューを前記表示画面に表示させる表示制御手段と

を具備することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】 前記情報処理装置は、前記表示側筐体の背面が前記本体側筐体に近接した状態で操作可能位置に配置される第 2 の操作子を有し、

前記表示制御手段は、前記第 2 の操作子の操作に基づき前記システムメニューの中から実行すべき処理候補を選択する

ことを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 3】 オペレーションシステムである OS プログラムとアプリケーションプログラムとに基づいて各種情報処理を行う情報処理装置において、

キーボードが配置される本体側筐体と、

表示画面が前面に配置され、前記本体側筐体に対して開閉方向及び旋回方向に回動自在に連結される表示側筐体と、

撮影機能を有する撮影用筐体と、

少なくとも前記回動により前記表示側筐体の背面が前記本体側筐体に近接した撮影状態で操作可能位置に配置される第 1 の操作子と、

前記第 1 の操作子の操作に基づき、前記 OS プログラムに基づく処理候補を示すシステムメニューを前記表示画面に表示させる表示制御手段と

を具備することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 4】 前記情報処理装置は、前記表示側筐体の背面が前記本体側筐体に近接した撮影状態で操作可能位置に配置される第 2 の操作子を有し、

前記表示制御手段は、前記第 2 の操作子の操作に基づき前記システムメニューの中から実行すべき処理候補を選択する

ことを特徴とする請求項 3 に記載の情報処理装置。

【請求項 5】 前記第 1 の操作子は、押圧操作が可能な操作子であり、

前記第 2 の操作子は、回転操作及び押圧操作が可能な操作子である

ことを特徴とする請求項 2 に記載の情報処理装置。

【請求項 6】 前記第 1 の操作子は、押圧操作が可能な操作子であり、

前記第 2 の操作子は、回転操作及び押圧操作が可能な操作子である

ことを特徴とする請求項 4 に記載の情報処理装置。

【請求項 7】 前記表示制御手段は、前記システムメニューの表示中に前記第 1 の操作子が操作された場合、前記システムメニューが表示されてから予め設定された時間が経過した場合、前記システムメニューの中から任意の処理候補が選択された場合、前記キーボードを含む所定の操作子が所定操作された場合のうちの少なくとも 1 以上の条件を契機として前記システムメニューを非表示にする

ことを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 8】 前記表示制御手段は、前記システムメニューに表示する処理候補として、当該情報処理装置の入出力設定に関する処理候補、GUI に関する処理候補、当該情報処理装置の動作モードに関する処理候補のうちの少なくとも 1 種類以上を表示する

ことを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、情報処理装置に関し、特にノート型パーソナルコンピュータにおいて表示側筐体を本体側筐体側に閉じた場合でも簡易に各種操作を行うことができる情報処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来より、パーソナルコンピュータ（以下、「PC」という）には、液晶ディスプレイとキーボードを一体化して小型・軽量化を図ったノート型パーソナルコンピュータ（以下、「ノート型PC」という）がある。このノート型PCにおいては、液晶ディスプレイを配置した表示側筐体がキーボード等を配置した本体側筐体に対して開閉方向に回動可能に連結される。これにより、ユーザは、液晶ディスプレイの画面を見ながらキーボードを操作することができ、非使用時や携帯時には表示側筐体を本体側筐体側に閉じてノート型PC全体を薄型化できるようになされている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、近年のノート型PCにおいては、CD-ROMドライブ（compact disk read-only memory drive）に挿入されたCD再生等を行うアプリケーションプログラムを実行させる操作ボタンを別途設けることにより、表示側筐体を本体側筐体側に閉じてキーボードが操作できない場合でも音楽再生等を行うことができるものが提供されている。

【0004】

しかし、この種の情報処理装置においても、表示側筐体を本体側筐体側に閉じた状態では表示側筐体に配置された画面を見ながら操作ボタンの操作を行うことはできなかった。一方、表示側筐体を本体側筐体側に閉じた状態でも、ハードウェアシステムの設定等の種類が多いシステム操作を表示側筐体に配置された画面を見ながら行うことができれば便利であると考えられる。

【0005】

そこで本発明の目的は、表示側筐体を本体側筐体側に閉じた場合でも、表示側筐体の画面を見ながら簡易にシステム操作を行うことができる情報処理装置を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するため本発明においては、情報処理装置において、表示画面

が前面に配置された表示側筐体をキーボードが配置される本体側筐体に対して開閉方向及び旋回方向に回動自在に連結すると共に、少なくとも表示側筐体の背面が本体側筐体に近接した状態で操作可能位置に配置される操作子を有し、この操作子の操作に基づきOSプログラムに基づく処理候補を示すシステムメニューを表示画面に表示させるようにした。

【0007】

これにより、この情報処理装置は、表示側筐体の背面が本体側筐体に近接した状態で操作可能位置に配置される操作子によりOSプログラムに基づく処理候補を示すシステムメニューをいつでも表示画面に表示させることができるので、ユーザは、表示側筐体を本体側筐体側に閉じた場合でも表示側筐体の表示画面を見ながら簡易に所望のシステム操作を行うことができる。

【0008】

【発明の実施の形態】

以下、適宜図面を参照しながら本発明の実施形態について説明する。

【0009】

(1) 実施形態

図1は、本発明の実施形態に係るノート型PCの内部構成を示すブロック図である。図1に示すように、このノート型PC1は、ノート型PC1全体を制御するCPU（中央演算処理装置）10と、CPU10のワークメモリとして使用されるRAM（Random Access Memory）11と、ノート型PC1の起動時等に読み込まれるプログラム群を記録したROM（Read Only Memory）12と、OS（Operating System）プログラム並びに各種アプリケーションプログラム等の各種データを記録するハードディスクドライブ（HDD）13とを備えている。

【0010】

さらに、ノート型PC1は、ユーザの操作を入力するためのキーボード21、操作ダイヤル32及び操作ボタンB1～B4（図2参照）等の操作部14と、操作部14の操作に対応するデータをCPU10に供給する操作用インターフェース（操作用I/F）15と、液晶ディスプレイである表示部16と、表示部（液晶ディスプレイ）16に各種情報を表示させるための表示用インターフェース（

表示用 I / F) 1 7 と、外部モニタに映像信号及び音声信号を出力したり、外部機器との間でデータ通信を行うための入出力部 1 8 と、撮影を行うためのビデオカメラ部 1 9 とを備えている。

【 0 0 1 1 】

従って、この PC 1 においては、CPU 1 0 により HDD 1 3 に記録された所定のアプリケーションプログラムを実行することにより、ビデオカメラ部 1 9 により撮影を行ったり、撮影した画像を表示部 1 6 や外部モニタに表示させたり、HDD 1 3 に記録したり、画像編集等をノート型 PC 1 単体で行うことができるようになされている。

【 0 0 1 2 】

次に、図 2 は、このノート型 PC 1 の外観構成を示す斜視図である。図 2 に示すように、このノート型 PC 1 において、本体側筐体 2 0 には、従来のノート型 PC が備えるキーボード 2 1 や図示しない CD-ROM ドライブや入出力端子等が設けられている。また、表示側筐体 3 0 には、各種情報を表示する画面 3 1 と、画面 3 1 の右側に回転操作及び押圧操作可能な操作ダイヤル（第 2 の操作子）3 2 とが設けられている。ここで、表示側筐体 3 0 は、本体側筐体 2 0 に対して開閉方向に回動可能に支持されると共に、旋回方向（図中 A により示す方向）に回動可能に支持され、これにより、表示側筐体 3 0 を開閉したり、表示側筐体 3 0 の画面 3 1 を任意の方向に向けることができるようになされている。

【 0 0 1 3 】

また、このノート型 PC 1 においては、本体側筐体 2 0 の側面（右側面）にビデオカメラ部 1 9 を内蔵するカメラ筐体 4 0 が連結されている。ここで、カメラ筐体 4 0 は、レンズ 4 1 を介して入力した画像から画像信号を生成すると共に、図示しないステレオマイクを介して入力した音声から音声信号を生成する機能を備えており、レンズ 4 1 が固定された鏡筒部分 4 2 が回動可能に支持され、レンズ 4 1 を所望の方向に向けることができるようになされている。

【 0 0 1 4 】

さらに、カメラ筐体 4 0 には、4 つの操作ボタン B 1、B 2、B 3 及び B 4 が設けられている。ここで、操作ボタン B 1 は、所定のアプリケーションプログラ

ム専用の設定メニューの画面 3 1 への表示を指示する操作子であり、操作ボタン（第 1 の操作子）B 2 は、システムメニューの画面 3 1 への表示を指示する操作子である。

【 0 0 1 5 】

ここで、システムメニューとは、OS に基づいて行われる処理、例えば、入出力装置等のハードウェアシステム（システムソフトウェアを含む）の設定、通信の設定、GUI（graphical user interface）の設定等のユーザの操作環境の設定等のシステム操作を行うための項目のリストである。なお、OS には、Windows（マイクロソフト社）等の OS 機能を備える GUI（graphical user interface）も含まれる。

【 0 0 1 6 】

また、残りの 2 つの操作ボタン B 3、B 4 は、アプリケーションプログラム毎またはアプリケーションプログラムが備えるモード（例えば、撮影モード、再生モード）毎に指示内容が切り替わる操作子であり、具体的には、撮影モードの場合には録画開始及び録画停止の指示に切り替わる一方、再生モードの場合には再生及び再生停止の指示等に切り替わるようになされている。

【 0 0 1 7 】

このノート型 PC 1 においては、操作ボタン B 1 に撮影用アプリケーションプログラム専用の設定メニューの表示指示を割り当てた場合は、操作ボタン B 1 が操作されると、録画開始、録画停止、再生、静止画撮影と動画撮影の切り換え等のリストである設定メニューのメニュー画面を画面 3 1 の中央にポップアップ表示する。そして、この表示された設定メニューの操作は、ユーザが表示側筐体 3 0 に設けられた操作ダイヤル 3 2 を回転操作することにより所望の処理（録画開始等）を選択でき、操作ダイヤル 3 2 を押圧操作することにより選択した処理を実行させることができるようになされている。

【 0 0 1 8 】

また、このノート型 PC 1 においては、操作ボタン B 2 が操作された場合は、システムメニューのメニュー画面を画面 3 1 の中央にポップアップ表示する。そして、表示されたシステムメニューの操作は、上述した設定メニューの場合と同

様に操作ダイヤル32の操作だけで行われるようになされている。以下、ユーザがシステムメニューを表示させてシステム操作を行う場合のノート型PC1の動作を図3に示すフローチャートを参照しながら説明する。

【0019】

まず、ノート型PC1において、ユーザにより操作ボタンB2が操作されたことがCPU10により検出されると（ステップSP1：YES）、図4に示すように、システムメニュー画面SMが画面31の中央にポップアップ表示される（ステップSP2）。同図に示すように、システムメニュー画面SMの初期画面には、システム設定を選択するための項目（「システム設定」）、Windows（マイクロソフト社）等が行う処理機能を選択するための項目（「便利ツール」）及びWindows（マイクロソフト社）等が行う他の機能（節電モードの実行等）を選択するための項目（「手前のウィンドウを閉じる」、「システムサスペンド」、「システムハイパネーション」、「終了」）が表示される。

【0020】

ここで、図5はシステムメニューの全項目を階層構造で示す図である。図4及び図5に示すように、システムメニュー画面SMの初期画面には、最上位の項目（図5において黒丸を付した項目）のみが表示され、下位メニューのある項目（「システム設定」、「便利ツール」）には予め定めた記号等（黒三角等）が付されて表示される（図4参照）。

【0021】

次に、ノート型PC1において、ユーザにより操作ダイヤル32が回転操作されたことがCPU10により検出されると（ステップSP3：回転操作）、回転操作に応じてシステムメニュー画面SMに表示されるフォーカスFの位置が各項目間を移動する（ステップSP4）。このとき、システムメニュー画面SMに表示しきれない項目がある場合は画面SM内の項目がスクロール表示される。

【0022】

一方、ユーザにより操作ダイヤル32が押圧操作されたことがCPU10により検出されると（ステップSP3：押圧操作）、フォーカスFにより選択された項目に下位メニューがあるか否かが判定される（ステップSP5）。ここで、下

位メニューがあると判定された場合は（ステップSP5：YES）、システムメニュー画面SMに下位メニューが追加表示される（ステップSP6）。具体的には、「システム設定」が選択された場合は、図6に示すように、外部出力切り換えを行う項目（「外部モニタ設定」）、TV（television）への出力設定を行う項目（「TV出力設定」）、画面の輝度を調整する項目（「輝度調整」）、音の設定を行う項目（「低音強調設定」、「音量設定」、「消音設定」、「録音設定」）、ビデオカメラ部19の設定を行う項目（「カメラ設定」）及び他の項目（「他の設定」）が追加される（図5参照）。なお、図6のシステムメニュー画面SMに表示されていない項目は、上述したように操作ダイヤル32の回転操作によって表示される（ステップSP4）。

【0023】

また、「便利ツール」が選択された場合は、最前列のウィンドウを切り替える項目（「アクティブウィンドウ切替」）、ダイヤルアップ接続を行う項目（「ダイヤルアップツール」）、フォルダを閲覧する項目（「フォルダブラウザ」）、スタートメニューを表示する項目（「スタートメニュー」）等が追加表示される（図5参照）。さらに、「システム設定」の下位メニューの中の「他の設定」が選択された場合は、ノート型PC1の起動時の設定を行う項目（「起動時音量設定」等）、システム情報の表示を指示する項目（「システム情報」）等が追加表示される（図5参照）。なお、このようにシステムメニューを階層構造で表示する方法に代えて、各階層毎のメニュー画面に切替表示させてもよい。

【0024】

そして、ユーザの操作ダイヤル32の押圧操作によって、下位メニューのない項目が選択されたことがCPU10により検出されると（ステップSP5：NO）、その項目に対応する設定画面の表示若しくは対応する処理が実行される（ステップSP7）。これにより、ユーザはシステムメニューの中から所望の項目を選択することができ、所望のシステム操作を行うことができる。

【0025】

また、このノート型PC1においては、操作ダイヤル32の押圧操作により下位メニューのない項目が選択された場合、若しくは、各メニューの表示指示を行

う操作ボタンB 1 又はB 2 が各メニュー画面の表示中に再び操作された場合、または、これらメニュー画面を表示してから予め定めた時間が経過した場合、または、他のウィンドウが選択された場合のいずれかを契機として、CPU 1 0 によりメニュー画面が非表示にされる。なお、メニュー画面の非表示指示を所定のキーや複数のキーの同時操作（いわゆるショートカットキー）に割り当ててもよい。

【0026】

次に、このノート型PC 1 の使用状態について説明する。

このノート型PC 1 は、図7（a）～（d）に示すように、表示側筐体3 0 の向き及びカメラ筐体4 0 の鏡筒部分4 2 の傾きを変更することによって4 種類の使用状態に変更できるようになされている。

【0027】

すなわち、図7（a）は、通常のノート型PC の使用状態と同一の使用状態を示しており、この使用状態においては、ユーザは画面3 1 を見ながらキーボード2 1 を操作したり、キーボード2 1 の操作者（ユーザ）の手元にある物等を簡易に撮影することができる。この場合、ユーザは、キーボード2 1 の操作、若しくは、このノート型PC 1 に接続されたマウス等の入力装置の操作、または、操作ボタンB 1 ～B 4 及び操作ダイヤル3 2 の操作のいずれも画面3 1 を見ながら行うことができる。

【0028】

次に、図7（b）は、本体側筐体2 0 の底部にある三脚固定部（図示せず）に三脚を固定して撮影する時の使用状態を示し、表示側筐体3 0 の画面3 1 がキーボード2 1 の反対側に向けられる。これにより、ユーザは、画面3 1 により撮影画像をモニタしながら風景等を撮影することができる。また、この場合も、ユーザは、画面3 1 を見ながら操作ボタンB 1 ～B 4 及び操作ダイヤル3 2 を操作することができる。

【0029】

図7（c）は、ノート型PC 1 を持ちながら相手（撮影者以外）を撮影する時の使用状態を示し、表示側筐体3 0 の画面3 1 と反対側（背面側）が本体側筐体

20側に閉じられる。この場合、ノート型PC1の全体形状が小型化（薄型化）されるので持ち易くなる。また、図7（d）は、ノート型PC1を持ちながら自分（撮影者）を撮影する時の使用状態を示し、図7（c）に示す使用状態とカメラ筐体40の鏡筒部分42の向きのみが異なる。ここで、図7（c）及び（d）に示す使用状態の場合は、画面31を見ることはできるが、キーボード21がノート型PC1の内部に隠れるのでキーボード21を操作することはできない。しかし、この使用状態の場合でも、ユーザは、操作ボタンB1～B4及び操作ダイヤル32を操作することができる。

【0030】

なお、このノート型PC1においては、表示側筐体30の反転及び鏡筒部分42の傾きを検出する検出スイッチ（図示せず）が設けられており、検出スイッチの検出結果に応じてビデオカメラ部19の出力画像の上下方向、出力音声及び入力音声の左右方向、並びに、画面31に表示する撮影画像の上下左右方向を、それぞれの撮影状態に適した配置となるように自動的に切り替えるようになっている。

【0031】

このように、このノート型PC1は、いずれの使用状態においてもユーザが画面31を見ながら操作ボタンB1～B4及び操作ダイヤル32を操作できるようになっている。従って、このノート型PC1は、表示側筐体30を本体側筐体20側に閉じた場合でも、表示側筐体30に配置された大画面の画面31を使って設定メニューやシステムメニューを表示することができ、かつ、操作ダイヤル32の操作だけで所望のメニューの選択を行うことができるので、ユーザは所望のシステム操作を簡易に行うことができる。なお、設定メニューやシステムメニューは、ユーザによるメニュー項目の追加、削除といったカスタマイズも可能である。

【0032】

（2） 変形例

（2-1） 第一変形例

上述の実施形態においては、撮影機能を予め具備するノート型PCに本発明を

適用する場合について述べたが、本発明はこれに限らず、撮影機能（カメラ筐体 40）を具備しないノート型 P C にも広く適用することができる。要は、表示側筐体が本体側筐体に近接してキーボードを操作できない場合において、少なくともシステムメニュー等の表示指示を行う操作ボタン B 2 並びに選択操作を行うための操作ダイヤル 3 2 を操作できればよい。

【 0 0 3 3 】

例えば、図 8 に示すように、操作ボタン B 1 ～ B 4 を表示側筐体 3 0 の画面 3 1 の左側に配置することにより、ユーザは常に画面 3 1 を見ながら左手で操作ボタン B 1 ～ B 4 を操作でき、かつ、右手で操作ダイヤル 3 2 を操作することができる。従って、表示側筐体 3 0 を本体側筐体 2 0 側に閉じた場合でもユーザは簡易にシステム操作等を行うことができる。なお、システム操作のみを行う場合は操作ボタン B 2 があればよい。

【 0 0 3 4 】

（ 2 - 2 ） 第 2 変形例

上述の実施形態においては、ノート型 P C に本発明を適用する場合について述べたが、本発明はこれに限らず、要は、表示側筐体を本体側筐体側に閉じると、キーボード等のキー操作できなくなってしまう携帯電話装置、一般に P D A （Personal Digital Assistants）と呼ばれる情報処理装置等に広く適用することができる。

【 0 0 3 5 】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、表示側筐体を本体側筐体側に閉じた場合でも、表示側筐体の画面を見ながら簡易にシステム操作等の各種操作を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の実施形態に係るノート型 P C の内部構成を示すブロック図である。

【図 2】 前記ノート型 P C の外観構成を示す斜視図である。

【図 3】 前記ノート型 P C の動作を示すフローチャートである。

【図4】 前記ノート型PCのシステムメニュー表示時の初期画面を示す図である。

【図5】 前記ノート型PCのシステムメニューの全項目を示す図である。

【図6】 前記ノート型PCのシステムメニュー表示時の画面を示す図である。

【図7】 前記ノート型PCの4つの撮影状態を示す斜視図である。

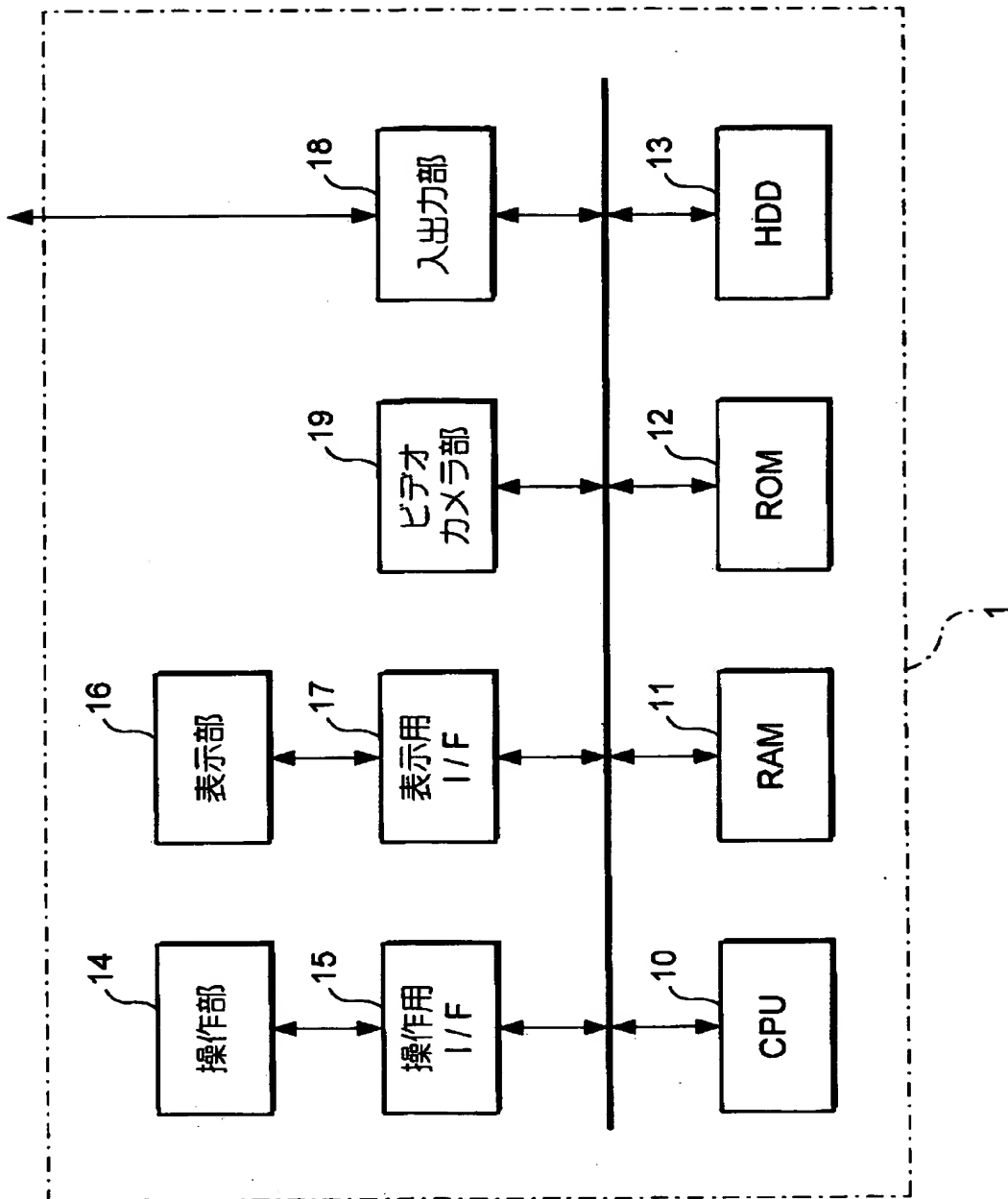
【図8】 第一変形例に係るノート型PCの外観構成を示す斜視図である。

【符号の説明】

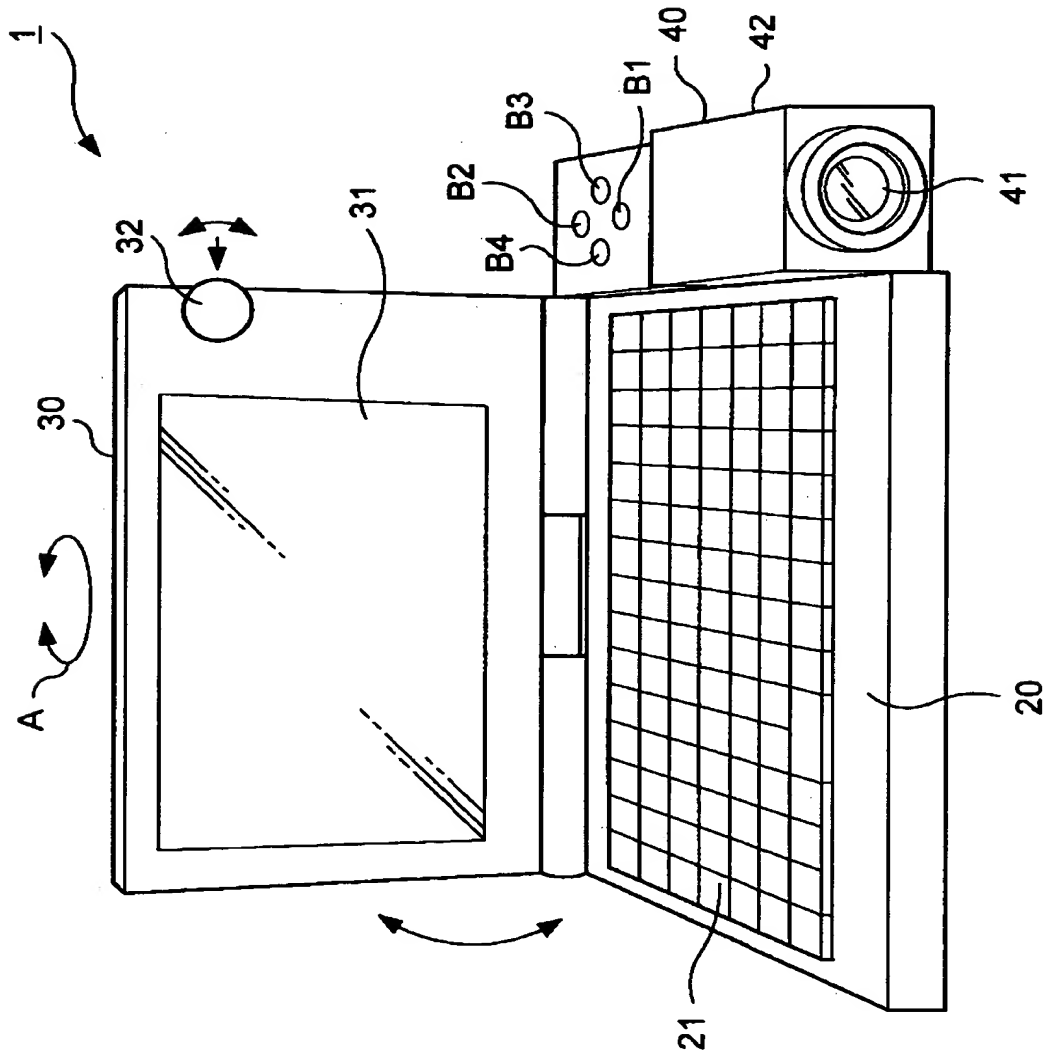
1……ノート型パーソナルコンピュータ（情報処理装置）、10……CPU、11……RAM、12……ROM、13……HDD、14……操作部、15……操作部I/F、16……表示部、17……表示部I/F、18……入出力部、19……ビデオカメラ部、20……本体側筐体、21……キーボード、30……表示側筐体、31……画面、32……操作ダイヤル（第2の操作子）、40……カメラ筐体、41……レンズ、42……鏡筒部分、B2……操作ボタン（第1の操作子）、B1、B3、B4……操作ボタン、SM……システムメニュー画面。

【書類名】 図面

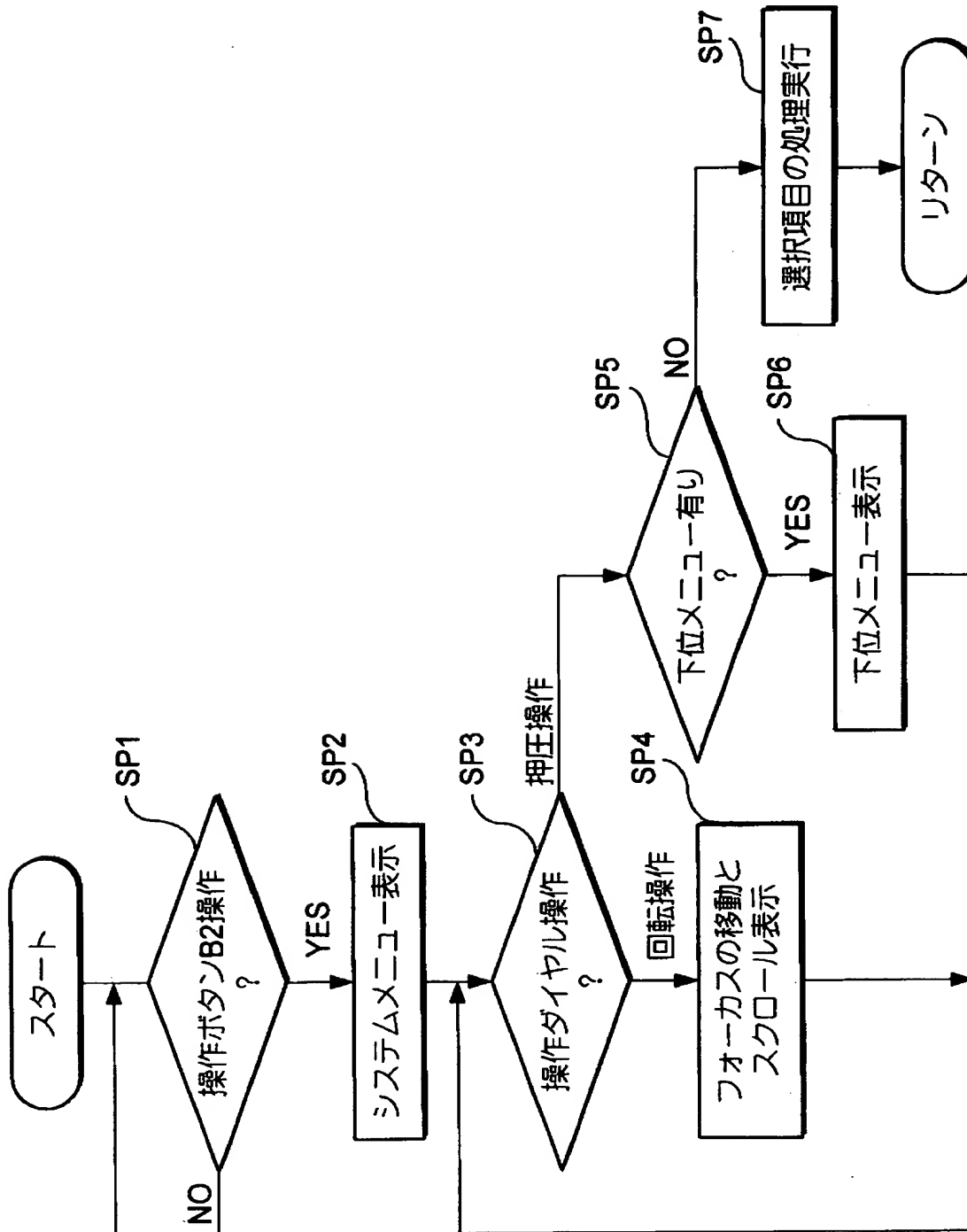
【図 1】



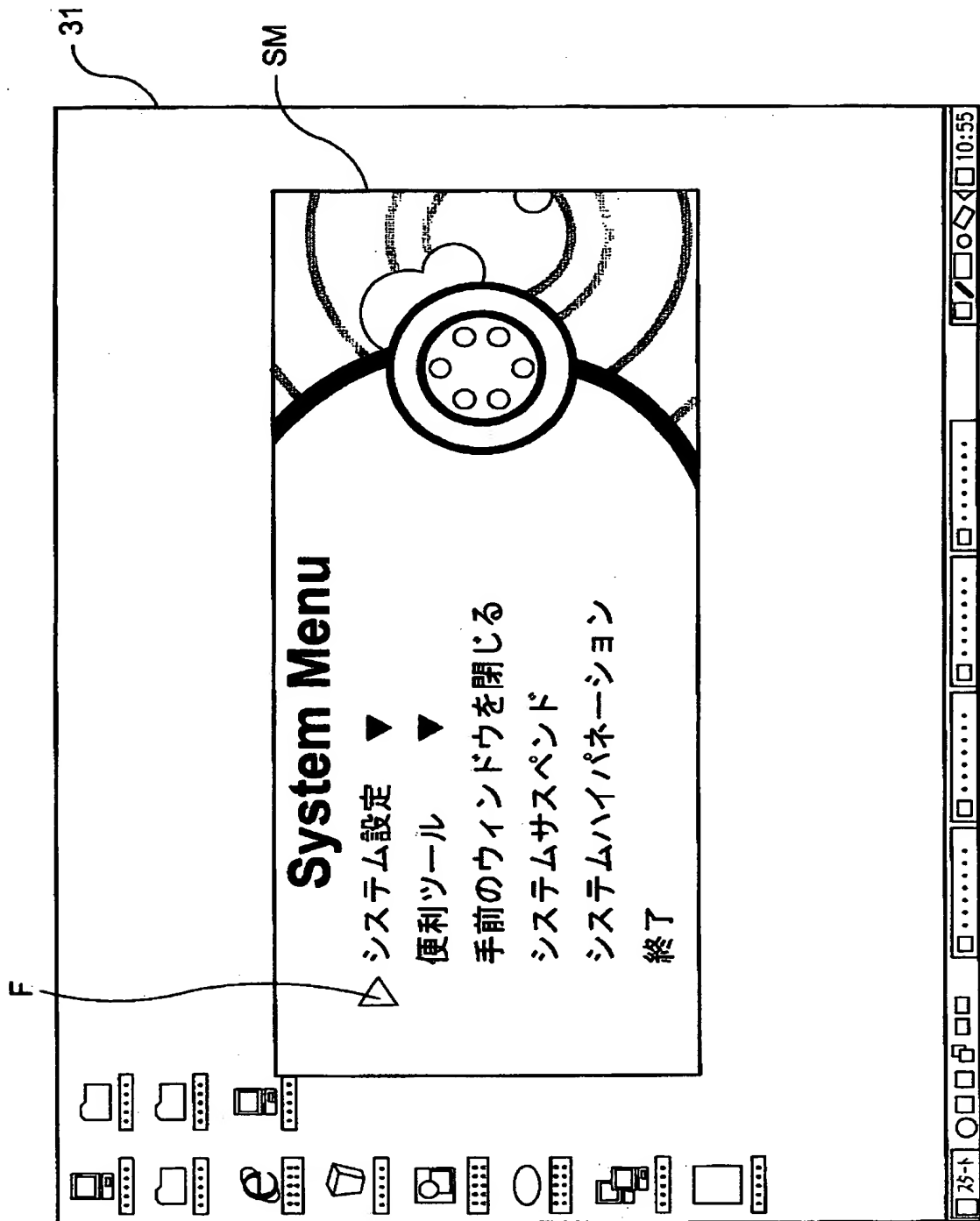
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

● システム設定

- 外部モニター設定
- TV出力設定
- 輝度調整
- 低音強調設定
- 消音設定
- 音量設定
- 録音設定
- カメラ設定
- 他の設定
 - 起動時音量設定
 - 起動デバイス設定
 - パワーオンシステム設定
 - システム設定
 - 操作ダイヤル設定

● 便利ツール

- アクティブウィンドウ切替
- ダイヤルアップツール
- フォルダブラウザ
- スタートメニュー

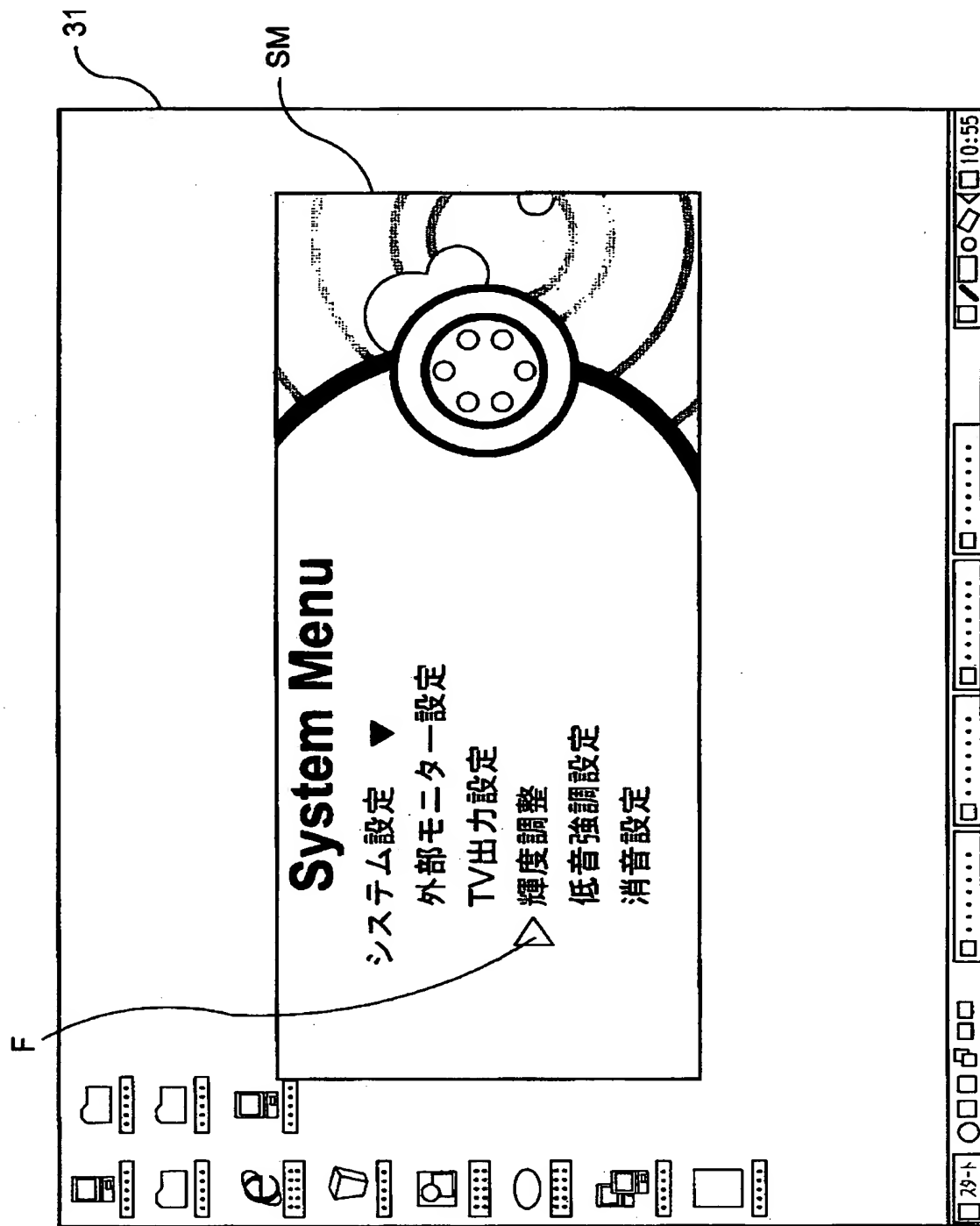
● 手前のウィンドウを閉じる

● システムサスペンド

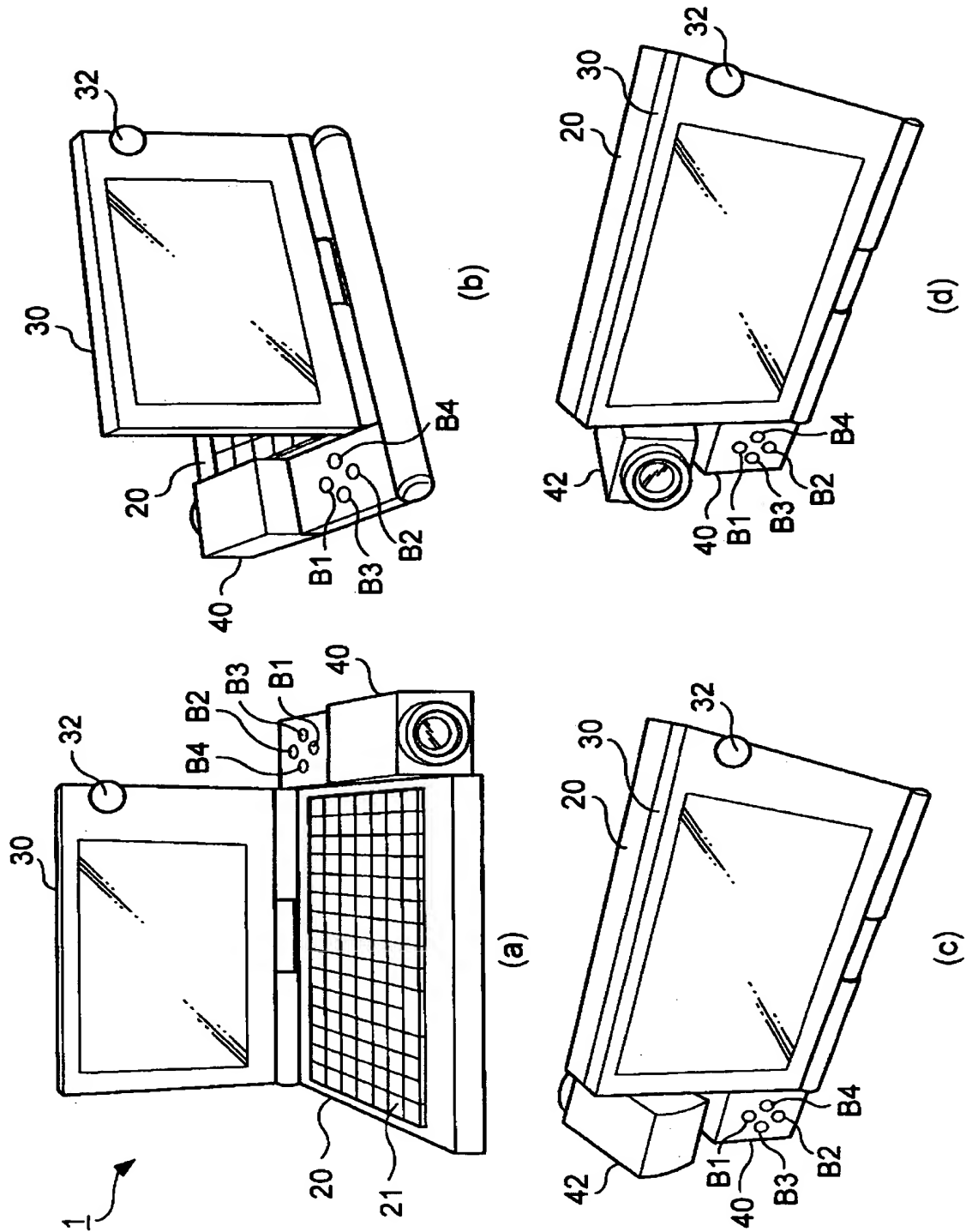
● システムハイパネーション

● 終了

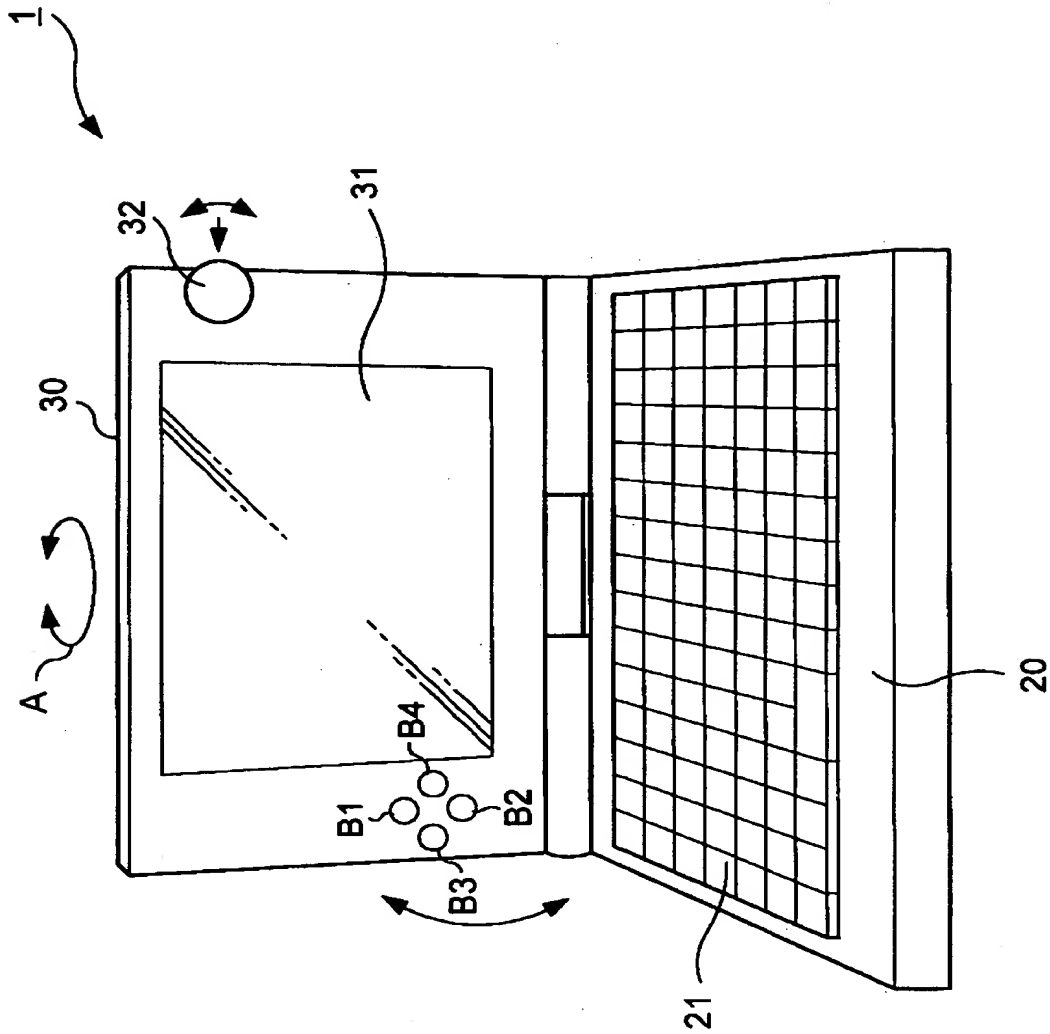
【図6】



【図 7】



【図 8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 表示側筐体を本体側筐体側に閉じた場合でも、表示側筐体の画面を見ながら簡易にシステム操作を行うことができる情報処理装置を提供する。

【解決手段】 情報処理装置 1 は、画面 3 1 が前面に配置された表示側筐体 3 0 をキーボード 2 1 が配置される本体側筐体 2 0 に対して開閉方向及び旋回方向に回動自在に連結すると共に、少なくとも表示側筐体 3 0 の背面が本体側筐体 2 0 に近接した状態で操作可能位置に配置される操作ボタン B 2 を有し、操作ボタン B 2 の操作に基づいて画面 3 1 にシステムメニューを表示する。

【選択図】 図 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002185]

1. 変更年月日	1990年 8月30日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都品川区北品川6丁目7番35号
氏 名	ソニー株式会社